

校異源氏物語・あさかほ

齋院は御ふくにており給にきかしおと、れいのおほしそめつる事たえぬ御く
せにて御とふらひなといしけうきこえたまふ宮わつらはしかりしことをおほ
せは御かへりもうちとけてきこえ給はすいとくちをしとおほしわたるなか月に
なりても、その、宮にわたり給ぬるをき、て女五の宮のそこにおはすれはそな
たの御とふらひに事つけてまうてたまふこ院のこのみこたちをは心ことにやむ
ことなくおもひきこえ給へりしかはいまもしたしくつきつきにきこえかはし給
ふめりおなし、んてむのにしひむかしにそすみ給けるほともなくあれにける心
ちしてあはれにけはひしめやかなり宮たいめむしたまひて御ものかたりきこえ
給ふいとふるめきたる御けはひしはふきかちにおはすこのかみにおはすれとこ
おほと、宮はあらまほしくふりかたき御ありさまなるをもてはなれこゑふつ
ゝかにこちゝしくおほえ給へるもさるかたなり院のうへかくれ給て後よろつ
心ほそくおほえはへりつるにとしのつもるまゝにいとなみたかちにてすくしは
へるをこのみやさへかくうちすて給へれはいよいよあるかなきかにとまりはへ
るをかくたちよりとはせ給になむものわすれしぬへくはへるときこえたまふか
しこくもふり給へるかなとおもへとうちかしこまりて院かくれ給て後はさま
ゝにつけておなし世のやうにもはへらすおほえぬつみにあたりはへりてしら
ぬよにまとひはへりしをたまゝおほやけにかすまへられたまつりてはまた
とりみたりいとまくなとしてとしころもまいりていにしへの御物語をたにき
こえうけ給はらぬをいふせくおもひたまえわたりつゝなむなときこえたまふを
いともゝあさましくいつかたにつけてもさためなきよをおなしさまにてみた
まへすくすいのちなかさのうらめしきことおほくはへれとかくてよにたちかへ
り給へる御よろこひになむありしとしころをみたてまつりさしてましかはくち
をしからましとおほえはへりとうちわなゝき給ていときよらにねひまさり給に
けるかなわらはにものし給へりしをみたてまつりそめしときよにかゝるひかり
のいておはしたる事とおとろかれはへりしをときときみたてまつることにゆゝ
しくおほえはへりてなむ内のうへなむいとよくにたてまつらせ給へりと人ゝ
きこゆるをさりともおとり給へらむとこそをしはかりはへれとなかゝるときこ

え給へはことにかくさしむかひて人のほめぬわさかなとおかしくおほすやまかつになりていたう思ひくつをればへりしところの、ちこよなくおとろへにてはへるものをうちの御かたはいにしへのよにもならふ人なくやとこそありかたくみたてまつりはへれあやしき御をしはかりになむときこえ給ときくみたてまつらはいと、しきいのちやのひはへらむけふはおいもわすれうき世のなきみなさりぬる心ちなむとてもまたないたまふ三宮うらやましくさるへき御ゆかりそひてしたしくみたてまつり給ふをうらやみはへるこのうせ給ひぬるもさやうにこそくひ給ふおりくありしかとの給ふにそすこしみ、とまり給ふさもさふらひなれなましかはいまに思ふさまにはへらましみなさはなたせ給てとうらめしけにけしきはみきこえ給ふあなたの御まゑをみやり給へはかれくなるせむさいの心はへもことにみわたされてのとやかになかめ給ふらむ御ありさまかたちもいとゆかしくあはれにてえねんし給はてかくさふらひたるついてをすくしはへらむは心さしなきやうなるをあなたの御とふらひきこゆへかりけりとてやかてすのこよりわたり給ふくらふなりたるほとなれとにひいろのみすにくろきみき帳のすきかけあはれにおひかせなまめかしくふきとおしけはひあらまほしすのこはかたわらいたければみなみのひさしにいたてまつるせんしいめんして御せうそこはきこゆいまさらにわかくしき心ちするみすのまへかな神さひにけるとし月のらうかそへられ侍にいまは内外もゆるさせ給ひてむとそたのみはへりけるとてあかすおほしたりありし世はみな夢にみなしていまなむさめてはかなきにやと思たまへさためかたくはへるにらうなどはしつかにやとさためきこえさすへうはへらむときこえいたし給へりけにこそさためかたき世なれとはかなきことにつけてもおほしつ、けらる

人しれす神のゆるしをまちしまにこ、らつれなき世をすくすかないまはなにのいさめにか、こたせ給はむとすらむなへて世にわつらはしきことさへはへりしのちさまく思給へあつめしかないかてかたはしをたにとあなかにきこえたまふ御よういなどもむかしよりもいますこしなまめかしきけさへそひたまひにけりさるはいといたうすくし給へと御くらゐのほとにはあはさめりなへてよのあはれはかりをとふからにちかひしこと、神やいさめむとあれはあな心うそのよのつみはみなしなどの風にたくへてきとの給ふあひきやうもこよなしみそきをかみはいか、はへりけんなどはかなき事をきこゆるもまめやかにはいとかたはらいしたしよつかぬ御ありさまはとし月にそへてもものふかくのみひきいり給ひてえきこえ給はぬをみたてまつりなやめりすきくしきやう

になりぬるをなとあさはかならすうちなきてたち給ふよはひのつもりにはおもなくこそなるわさなりければにしらぬやつれをいまそとたにきこえさすへくやほもてなし給ひけるとていて給ふなこりところせきまでれいのきこえあへりおほかたのそらもおかしきほとにこのはおとなひにつけてもすきにしもの、あはれとりかへしつゝそのおりくおかしくもあはれにもふかくみえ給し御心はへなとも思ひいてきこえさす心やましくてたちいて給ひぬるはましてねさめかちにおほしつゝけらるとくみかうしまいらせ給て朝きりをなかくめ給ふかれたる花ともの中にあさかほのこれかれにはひまつはれてあるかなきにさきてにほひもことにかはれるをゝらせ給てたてまつれ給ふけさやかなりし御もてなしに人わろき心ちしはへりてうしろてもいとゝいかゝ御らむしけむとねたくされと

みしおりの露わすられぬあさかほのはなのさかりはすぎやしぬらんとしころのつもりもあはれとはかりはさりともおほしゝるらむやとなむかつはなときこえ給へりおとなひたる御ふみの心はへにおほつかなからむもみしらぬやうにやとおほし人くも御すゝりとりまかなひてきこゆれば

あきはてゝきりのまかきにむすほゝれあるかなきにうつるあさかほにつかはしき御よそへにつけてもつゆけくとのみあるはなにのおかしきふしもなきをいかなるにかをきかたく御らむすめりあをにひのかみのなよひかなるすみつきはしもおかしくみゆめり人の御ほとかきさまなどにつくろはれつゝそのおりはつみなきこともつきくしくまねひなすにはほゝゆかむ事もあめれはこそさかしらにかきまきはしつゝおほつかなきこともおほかりけりたちかへりいまたさらにわかくしき御ふみかきなどにもけなきことゝおほせともなをかくむかしよりもてはなれぬ御けしきなからくちをしくてすきぬるをおもひつゝえやむましくておほさるればさらかへりてまめやかにきこえ給ひんかしのたいにはなれおはしてせしをむかへつゝかたらひ給ふさふ人くゝのさしもあらぬきはのことをたになひきやすなるなどはあやまちもしつへくめてきこゆれと宮はそのかみたにこよなくおほしはなれたりしをいまはましてたれもおもひなかるへき御よはひおほえにてはかなき木草につけたる御かへりなどのおりすくさぬもかるくしくやとりなさるらむなと人のものいひをはゝかり給ひつゝうちとけ給へき御けしきもなければふりかたくおなしさまなる御心はへをよの人にかはりめつらしくもねたくも思ひきこえ給ふよのなかにもりきこえてせむ齋院をねんころにきこえたまへはなむ女五の宮などもよろしくおほしたなりにけなから

ぬ御あはひならむなといひけるをたいのうへはつたへき、給ひてしはしはさりともしやうならむこともあらはへたて、はおほしたらしとおほしけれうちつけにめと、めきこえ給に御けしきなともれいならすあくかれたるも心うくまめくしくおほしなるらむことをつれなくたはふれにい、なしたまひけんよとおなしすちにはものし給へとおほえことにむかしよりやむことなくきこえ給ふお御心なとうつりなは、したなくもあへいかなとしころの御もてなしなどはたちならふかたなくさすかにならひて人にをしけたれむ事なと人しれすおほしなけるかきたえなこりなきさまにはもてなし給はすともいものはかなきさまにてみなれ給へるとしころのむつひあなつらはしきかたにこそはあらめなどさまくく思ひみたれ給ふによろしきことこそうちゑしなどにくからすきこえ給へまめやかにつらしとおほせはいろにもいたし給はすはしちかうなめかちにうちすみしけくなりやくとは御文をかき給へはけに人のことはむなしかるましきなめりけしきをたにかすめ給へかしとうとましくのみおもひきこえ給ふゆふつかた神わさなともとりてさうくしきにつれくとおほしあまりて五の宮にれいのちかつきまいり給ふゆきうちりてえむなるたそかれときになつかしきほとになれたる御そともをいよくたきしめ給てこ、ろことにけさうしくらし給へれはいと、心よはからむ人はいか、とみえたりさすかにまかり申はたきこえ給ふ女五の宮のなやましくしたまふなるをとふらひきこえになむとてついゑ給へれとみもやり給はすわか君をもてあそひまきはしおはするそはめのた、ならぬをあやしく御けしきのかはれるへきころかなつみもなしやしほやきころものあまりめなれみたてなくおほさるゝにやとてとたえをくをまたいか、なときこえ給へはなれゆくこそけにうきことおほかりけれとはかりにてうちそむきてふし給へるはみすて、いて給ふみちものうけれとみやに御せうそきこえたまひてければいて給ひぬか、りける事もありけるよをうらなくてすくしけるよとおもひつゝけてふし給へりにひたる御そともなれというあひかさなりこのましくなかくみえてゆきのひかりにいみしくえむなる御すかたをみいたしてまことにかれまさり給は、としのひあへすおほさる御せんなどのひやかなるかきりしてうちよりほかのありきはものうきほとになりにけりやも、その、宮の心ほそきさまにてもなし給ふも式部卿宮にとしころはゆつりきこえつるをいまはたのむなとおほしの給もことはりにいとおしければなと人くにも給ひなせといてや御すき心のふりかたきそあたら御きすなめるかるくしき事もいきなむなとつふやきあへり宮にはきたをもての人しけきかたなるみかとはい

給はむもろくしければにしかることくしきを人いれさせ給て宮の御方に御せうそこあればけふしもわたり給はしとおほしけるをおとろきてあけさせ給みかともりさむけなるけはひうすきいてきてとみにもえあけやらすこれよりほかのをのこはたなきなるへしこほとひきて上のいたくさひにければあかすとうれふるをあはれときこしめすきのふけふとおほすほとにみとせのあなたにもなりにけるよかなかゝるをみつかりそめのやとりをえ思ひすてすきくさの色にも心をうつすよとおほししるゝくちすさひに

いつのまによもきかもとゝむすほれゆきふるさとゝあれしかきねそやゝ

ひさしうひこしらひあけていり給ふ宮の御かたにれいの御物かたりきこえ給ふにふることゝものそこはかとなきうちはしめきこえつくし給へと御みゝもおとろかすねふたきにみやもあくひうちし給てよひまとひをしはへれはものもえきこえやらすとの給ほともなくいひきとかきゝしらぬをとすればよろこひなからたちいて給はむとするにまたいとふるめかしきしはふきうちしてまいりたる人ありかしこけれときこしめしたらむとたのみきこえさするをよにあるものともかすまへさせたまはぬになむ院のうへはをはおとゝとわらはせ給しなとなのりいつるにそおほしいつる源内侍のすけといひし人はあまになりてこのみやの御てしにてなむをこなふときゝしかといまゝてあらむともたつねしり給はさりつるをあさましうなりぬそのよのことはみなむかしかたりになりゆくをはるかにおもひいつるも心ほそきにうれしき御こゑかなおやなしにふせるたひ人とはくゝみ給へかしとてよりゑたまへる御けはひにいとゝむかしおもひいてつゝふりかたくなまめかしきさまにもてなしていたうすけみにたるくちつきおもひやらゝゝこはつかひのさすかにしたつきにてうちされむとは猶おもへりいひこしほとになときこえかゝるまはゆさよいましもきたるおひのやうになとほゝゑまれ給ふものからひきかへこれもあはれなりこのさかりにいとみ給し女御かういあるはひたすらなくなり給あるはかひなくてはかなきよにさすらへ給ふもあへかめり入道の宮などの御よはひよあさましのみおほさるゝよにとしのほとみのゝこりすくなけさにこゝろはへなどもゝのはかなくみえし人のいきとまりてのとやかにおこなひをもうちしてすくしけるは猶すへてさためなき世なりとおほすにもあはれなる御けしきを心ときめきに思ひてわかやく

としふれとこの契こそわすられねおやのおやとかいひしひとことゝきこゆれはうとましくて

身をかへて後もまぢみよこのよにておやをわするゝためしありやとたのも

しきちぎりそやいまのとかにそきこえさすへきとてたち給ひぬにしおもてには
みかうしまいられたれといひきこえかほならむいかゝとてひとまふたまはお
ろさす月さしいてゝうすらかにつもれるゆきのひかりあひてなかゝいとおも
しろきよのさまなりありつるおいらくの心けさうもよからぬものゝよのたとひ
とかきゝしとおほしいてられておかしくなむこよひはいとまめやかにきこえ給
ひてひとことにくしなとも人つてならてのたまはせんをおもひたゆるふしにも
せんとおりたちてせめきこえたまへとむかしわれも人もわかやかにつみゆるさ
れたりしよにたにこ宮などの心よせおほしたりしをなをあるましくはつかしと
おもひきこえてやみにしをよのすゑにさたすきつきなきほとにてひとこゑもい
とまはゆからむとおほしてさらにうきなき御心なればあさましうつらしと思
ひきこえ給さすかにはしたなくさしはなちてなとはあらぬ人つての御かへりな
とそ心やましきや夜もいたうふけゆくに風のけはひはけしくてまことにいとも
の心ほそくおほゆれはさまよきほとをしのこひ給ひて

つれなさをむかしにこりぬ心こそ人のつらきにそへてつられ心つからの

とのたまひすさふるをけにかたはらいたしと人ゝれいのきこゆ

あらためてなにかはみえむ人のうへにかゝるときゝし心かはりをむかしに

かはることはならはすなときこえたまへりいふかひなくていとまめやかにゑし
きこえていて給もいとわかゝしき心ちし給へはいとかくよのためしになりぬ
へきありさまもらし給なよゆめゝいさらかはなともなれゝしやとてせちに
うちさゝめきかたらひ給へとなに事にかあらむ人ゝもあなかたしけなあなか
ちになさけをくれてもゝてなしきこえたまふらんからかにをしたちてなとは
みえ給はぬ御けしきを心くるしうといふけに人のほのおかしきにもあはれに
もおほししらぬにはあらねとものおもひするさまにみえたてまつるとてをしな
へてのよの人のめてきこゆらむつらにやおもひなされむかつはかるゝしき心
のほともみしり給ひぬへくはつかしけなめる御ありさまをとおほせはなつかし
からむなさけもいとあひなしよその御かへりなとはうちたえておほつかなかる
ましきほとにきこえ給ひ人つての御いらへはしたなからてすくしてむとふかく
おほすとしころしつみつるつみうしなうはかり御おこなひをとはおほしたてど
にはかにかゝる御事をしもてはなれかほにあらむも中ゝいまめかしきやう
にみえきこえて人のとりなさしやはとよの人のくちさかなさをおほししりにし
かはかつさふらふ人にもうちとけ給はすいたう御心つかひし給ひつゝやうゝ
御をこなひをのみしたまふ御はらからのきむたちあまたものし給へとひとつ御

はらならねはいとうくしく宮のうちいとかすかになりゆくまゝにさはかり
めてたき人のねむころに御心をつくしきこえ給へはみな人心をよせきこゆるも
ひとつ心とみゆおとゝはあなちにおほしいらるゝにしもあらねとつれなき御
けしきのうれたきにまけてやみなむもくちをしくけにはた人の御ありさまよ
おほえことにあらまほしくものをふかくおほししりよの人のとあるかゝるけち
めもききつめ給ひてむかしよりもあまたへまさりておほさるれはいまさらの御
あたけもかつはよのときをもおほしなからむなしからむはいよく人わらへ
なるへしいかにせむと御心うききて二条院に夜かれかさね給ふを女きみはたは
ふれにくゝのみおほすしのひたまへといかゝうちこほるゝおりもなからむあや
しくいならぬ御けしきこそ心えかたけれどとて御くしをかきやりつゝいとおし
とおほしたるさまもゑにかゝまほしき御あはひなり宮うせ給ひて後うへのいと
さうさうしけにのみよをおほしたるも心くるしうみたてまつりおほきおとゝも
ものし給はてみゆつる人なきことしけさになむこのほどのたえまなどをみなら
はぬことにおほすらむも事はりにあはれなれといまはさりととも心のとかにおほ
せおとなひ給ためれとまたいとおもひやりもなく人の心もみしらぬさまにもの
し給ふこそらうたけれなとまろかれたる御ひたいかみひきつくるひ給へといよ
くそむきてものもきこえ給はすいといたくわかひ給へるはたかならはしきこ
えたるそとてつねなきよにかくまて心にかかるゝもあちきなのわざやとかつはう
ちなかめ給ふさい院にはかなしこときこゆるやもしおほしひかむるかたあるそ
れはいともてはなれたる事そよをのつからみたまひてむ昔よりこよなうけとを
き御心はへなるをさうさうしきおりくたゝならてきこえなやますにかしこも
つれつれにものし給ふところなれはたまさかのいらへなとし給へとまめくし
きさまにもあらぬをかなむあるとしもうれへきこゆへきことにやはうしろめ
たうはあらしを思ひなをしたまへなとひひとひなくさめきこえ給ふ雪のいた
うふりつもりたるうへにいまもちりつゝまつとたけとのけちめおかしうみゆる
夕くれに人の御かたちもひかりまさりてみゆときくにつけても人の心をうつ
すめる花もみちのさかりよりも冬の夜のすめる月にゆきのひかりあひたる空こ
そあやしういろなきものゝ身にしてみてこのよのほかの事までおもひなかされお
もしろさもあはれさもののこらぬおりなれすさましきためにいひをきけむ人の
心あささよとてみすまきあけさせ給ふ月はくまなくさしいてゝひとつ色にみえ
わたされたるにしほれたるせむさいのかけ心くるしうやり水もいといったうむせ
ひて池のこほりもえもいはすゝこきにわらはへおろして雪まろはしせさせ給ふ

おかしけなるすかたかしらつきともつきにはへておほきやかになれたるかさま
くゝのあこめみたれきおひしとけなきとのいすかたなまめいたるにこよなうあ
まれるかみのすゑしろきにはましてもてはやしたるいとけさやかなりちゑさき
はわらはけてよろこひはしるにあふきなどもおとしてうちとけかをおかしけな
りいとおほうまろはさらむとふくつけかれとえもをしうこかさてわふめりかた
へはひんかしのつまなどにいてゐて心もとなけにわらふひと、せ中宮のおまへ
にゆきのやまつくられたりしよにふりたる事なれと猶めつらしくもはかなきこ
とをしなし給へりしかな、にのおりくゝにつけてもくちをしうあかすもあるか
ないとけとをくもてなし給ひてくわしき御ありさまをみならしたてまつりしこ
とはなかりしかと御ましらひのほどにうしろやすきものにはおほしたりきかし
うちたのみきこえてとある事か、るおりにつけてなに事もきこえかよひしにも
ていて、らうくゝしきこともみえ給はさりしかといふかひあり思ふさまにはか
なきことわさをもしなし給ひしはやよにまたさはかりのたくひありなむやはら
かにをひれたるものからふかうよしつきたるところのならひなくものし給しを
君こそはさいへとむらさきのゆへこよなからすものし給ふめれとすこしわつら
はしきけそひてかとくゝしさのすゝみ給へるやくるしからむせんさい院の御心
はへはまたさまことにそみゆるさうくゝしきになにとはなくともきこえあはせ
われも心つかひせらるへきあたりたゝこのひとゝころやよにのこり給へらむと
のたまふ内侍のかみこそはらうくゝしくゆへくゝしきかたは人にまさり給へれ
あさはかなるすちなともてはなれ給へりける人の御心をあやしくもありけるこ
とゝもかなとの給へはさかしなまめかしうかたちよき女のためしにはなをひき
いてつへき人そかしさも思ふにいとをしくゝやしきことのおほかるかなまいて
うちあたけすきたる人のとしつもりゆくまゝにいかにくやしきことおほからむ
人よりはことなきしつけさと思ひしたになとの給ひいてゝかむの君の御ことに
にもなみたすこしはおとし給ひつこのかすにもあらずおとしめたまふ山さとの
人こそは身のほどにはやゝうちすきものゝ心なとえつへけれと人よりことなへ
きものなれは思ひあかれるさまをもみけちてはへるかないふかひなきゝはの人
はまたみす人はすぐれたるはかたきよなりやひんかしの院になかむる人の心は
へこそふりかたくらうたれさはたさらにえあらぬものをさるかたにつけての
心はせ人にとりつゝみそめしよりおなしやうによをつゝましけにおもひてすき
ぬるよいまはたかたみにそむくへくもあらずふかうあはれと思ひはへるなとむ
かしいまの御物語に夜ふけ行月いよくすみてしつかにおもしろし女君

こほりとちいしまの水はゆきなやみ空すむ月のかけそなるゝとをみいた
してすこしかたふき給へるほとにるものなくうつくしけなりかむさしおもやう
のこひきこゆる人のおもかけにふとおほえてめてたけはいさゝかわくる御心
もとりかさねつへしをしのうちなきたるに

かきつめてむかし恋しきゆきもよにあはれをそふるをしのうきねかいり給
ひてもみやの御事をおもひつゝおほとのこもれるに夢ともなくほのかにみたて
まつるいみしくうらみ給へる御けしきにてもらさしとのたまひしかとうきなの
かくれなかりければつかしうくるしきめをみるにつけてもつらくなむとのた
まふ御いらへきこゆとおほすにをそはるゝ心ちして女君のこはなとかくはとの
給ふにおとろきていみしくくちをしくむねのおきところなくさはけはをさへて
涙もなかれてにけりいまもいみしくぬらしそへ給ふ女君いかなる事にかとお
ほすにうちもみしろかてふし給へり

とけてねぬねさめさひしき冬の夜にむすほゝれつる夢のみしかさなかゝ
あかすかなしとおほすにとくおきたまひてさとはなくてところゝにみすきや
うなとせさせ給ふくるしきめみせ給ふとうらみ給へるもさそおほさるらんかし
をこなひをし給ひよろつにつみかろけなりし御ありさまなからこのひとつ事に
てそのよのにこりをすすい給はさらむとものゝ心をふかくおほしたとるにい
みしくかなしければなにわさをしてしる人なきせかいにおはすらむをとふらひ
きこえにまうてゝつみにもかはりきこえはやなとつくゝとおほすかの御ため
にとりたてゝなにわさをもしたまはむは人とかめきこえつへしうちにも御心の
おにゝおほすところやあらむとおほしつゝむほとにあみたほとけを心にかけて
ねんしたてまつり給おなしはちすにとこそは
なき人をしたふ心にまかせてもかけみぬみつのせにやまとはむとおほすそ
うかりけるとや